

# おがわの 魅力お届けBook vol2

おがわまき



2026年3月発行

小川町に住んでみた



若者未来会議



ホームページ Instagram

注意事項：  
掲載している内容は、予告なく変更になる場合がございます。

# 埼玉県 小川町

小川町は埼玉県の比企郡に属しており、「武蔵の小京都」と呼ばれる風情ある町並みを持ち、和紙のイメージが強いかもしれませんが、「OGAWA'Nプロジェクト」として

自然の豊かさが魅力の、のどかな町です。歴史・文化の香る地域です。それだけではなく最近是有機農業も盛んに行われており、小川町の地元野菜の魅力を発信する試みもなされています。

また、東武東上線の小川町駅から池袋駅までは  
移住希望者からの

約70分でアクセスでき、  
人気も高いです。

自然豊かで穏やかな側面だけでなく、和紙の原料である楮を活用したプロジェクトや、とても活発な

飲食店がオープンしたり、新たな事業が展開されたり、空き家を再利用した新たな活動が行われたりと、側面もあります。

小川町は山地の中に存在する平地、槻川や兜川などの河川が  
仙元山には見晴らしの丘公園があり、こうした自然と一体となれる豊かな町、

つまり盆地の地形を有しており、町内を流れています。小川町の景色を一望することができます。それが小川町です。

今回のおがわの魅力お届けBOOKのテーマは

## ” コアな魅力 ”

小川町で暮らす・小川町に通う、  
まだ知られていない、  
私たちと一緒に

私たち学生目線でお届けします！！  
小川町のローカルでコア魅力を  
感じてみませんか？

# 若者未来会議の紹介

若者未来会議とは、  
身近な課題を同年代の仲間と一緒に考え、  
解決に向けて取り組むことを目的とした組織です！

第5期のメンバーとして、高校生、大学生、  
そして地域に惹かれてやってきた若者たち。  
年齢も、通っている学校も、見てきた景色も異なる、  
個性豊かなメンバーが集結しました。

バックグラウンドが違えば、町を見る視点も違います。  
「ここが面白い！」「この風景が好き！」  
それぞれの感性がぶつかり合い、混ざり合うことで、  
一人では気づけなかった小川町の  
深い魅力を見つけることができました。

異なる色が重なって生まれた、第5期の集大成。  
多様な私たちが愛した小川町を、どうぞ楽しんでください。



# メンバー紹介





小川町



町

マ

ミ

プ



ローカル旅に、  
出てみない？



地理院地図（国土地理院）を加工して作成

小川町で活躍する、  
スター人をご紹介します！

山崎慶太さん



都内中学・高校教員を経て、2024年3月まで小川町との二拠点生活を実践。退職後、同町へ完全移住。

「有機の里」小川町の風土に魅せられ、現在は自然農法・不耕栽培にて七種の雑穀と野菜を作付けしている。また、里山の魅力を伝える民泊「おがわ里山の家」の運営や、地域交流拠点としての「みんなのニコニコ食堂（無料）」を毎月主催。移住者ならではの視点で里山の美しさを再発見し、地域の方々や来訪者との「触れ合い」を何よりも大切に活動している。



## ニコニコ食堂を始めたきっかけは何ですか？

山崎さん

八王子に住んでいた時に妻が自宅で無料塾をやっていて私がその手伝いをしていたこと、子供に関わる仕事がしたいと思ったことがきっかけです。

## 民泊「おがわ里山の家」には、どのような方が泊まりに来られるのですか？

山崎さん

元々は母子家庭の方が無料で泊まることのできるスペースを提供したいと思い、始めましたが、今はほとんどが農業関係の方で、その多くが有機農業の研修会の研修生ですね。



## 小川町の魅力について

1番の魅力は「人」です。

畑作業をしていると声をかけてくれたり、お菓子や飲み物を持ってきてくれたり、友好的な方が多いです。

また活動的なところも魅力の一つです。

多岐にわたるまちづくりや環境問題等の社会課題に意欲的に取り組まれている方がとても多いです。

—「Airbnb」という旅行サイトにもおがわ里山の家が掲載されているのを拝見しました。このサイトを利用して、どのような方が泊まれるのですか？

山崎さん

嵐山町に「埼玉クエスト」という、スノーボードやスキーのジャンプ練習施設があるんですよ。そこを目的に、外国人観光客の方がいらっしゃっています。

—おがわ里山の家は空き家を活用されたようですが、大変だったことはありますか？

山崎さん

家をリフォームする必要があり、壁や床などの修理と塗装を全部妻が1人でやりました。費用は抑えられたのですが、労力がとてもかかりました。

—民泊を運営する上で、大変だったことはありますか？

山崎さん

海外からいらっしゃった方の文化が日本の文化と異なることが、とても大変でした。反面、それが楽しみです。

—空き家利活用の魅力と課題は何ですか？

山崎さん

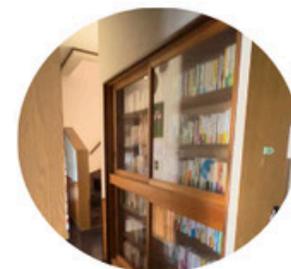
例えば空き家をリフォームして民泊を営むにしても、まだ市民権を得ていないことが課題ですね。また近隣の住民の方と信頼関係を築くことも重要になってきます。一方で、空き家を利活用する人や、その土地によって様々な色が出るのが魅力の一つです。



—空き家利活用をする人にアドバイスをお願いします。

山崎さん

地域の慣習や大切にしていることを尊重して、信頼関係を築くことです。



—今後の展望を教えてください。

山崎さん

おがわ里山の家を中心に、人がつながれる場所をつくりたいと思っています。孤食や孤立をなくして、悩みも気軽に話せるような空気のある場所ですね。子どもから大人まで集まれるフリースペースやフリースクールも計画しています。



おがわ里山の家

住所 : 小川町下里1531-3

電話番号 : 090-5398-9450

090-8595-0154



## 木谷海斗さん

大学院で建築を学んだのち、2020年3月から小川町で活動をスタート。

築140年ほどの旧比企銀行の再生プロジェクトをきっかけに小川町での活動を始め、今は北裏St.フェスティバルの運営や、まちの中に人が集まる居場所をつくる活動に取り組んでいます。実は音楽が趣味で、北裏St.フェスティバルでは、弾き語りを披露されていました！



個性豊かな  
手作り家具がたくさん！



## 比企銀行再生プロジェクト

旧比企銀行は、小川町が商都として栄えていた時代に建てられた、130年以上の歴史を持つ建物です。比企銀行再生プロジェクトは、歴史をもつ貴重な建物を改修・運営し、まちの居場所として新たな価値を生み出す取り組みです。

このプロジェクトをきっかけに、  
**小川町のコミュニティづくりへと**  
活動が広がっています！

## = インタビュー① =

— 小川町に関わるようになったきっかけは何ですか

木谷さん

大学院での同級生が小川町で活動していることを聞いて興味を持ちました。卒業して働き始める際に、建築設計の仕事をするのではなく、より地域に関わった生き方をしたい、そして自分で何かにチャレンジしたいという気持ちもありました。

— 建築家としてどのような活動をしていますか

木谷さん

建築と一緒に学んでいた同期3人と「KIWI Architect」というグループを立ち上げ、現在も活動中です。まちの人との繋がりを重視した建築。それを大切にしています。



— 小川町の魅力を一言で表すなら？

木谷さん

「盆地と交差点」ですね。小川町は恵まれた地形の上に人々の歴史や文化が作られてきました。程よく自然があり、人々の行き交いもある。そして山に囲まれた盆地なので1つのまちとして捉えられることが良いなと思います。

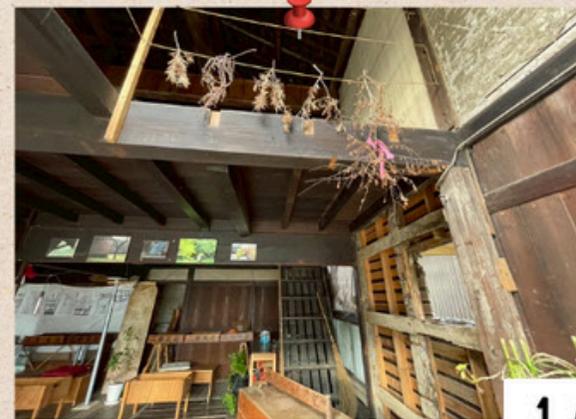


外からみると、  
古い建物だが、...

人の手が加わり、  
綺麗で開放的な空間に

## 旧比企銀行

〈小川町大塚141〉





## 北裏St.フェスティバル

### 木谷さんらが主催する「北裏St.フェスティバル」について少しご紹介します！

2022年から始まった、北裏St.フェスティバル。旧比企銀行をはじめ、古い蔵や神社が点在している「北裏通り」を会場に、美味しいご飯や珈琲の出店、ワークショップの開催など、何気ない普段の通り道が小川のひとたちによって彩られます！

### = インタビュー② =

—空き家を利活用するうえで感じていることを教えてください

木谷さん  
 空き家って、そこに人が暮らしていた痕跡や歴史を感じられる場所なんですよ。その時間の流れの中に自分もいるんだと実感できる。それは未来にも届くかもしれないです。  
 比企銀行マルシェを開いている際に、昔そこに住んでいたという方が来てくれた時はとても嬉しかった。改修したり、用途を変えたり、色々な使い方を試しながら、「古い」ということに価値を見出してくれる人が増えると良いですね。

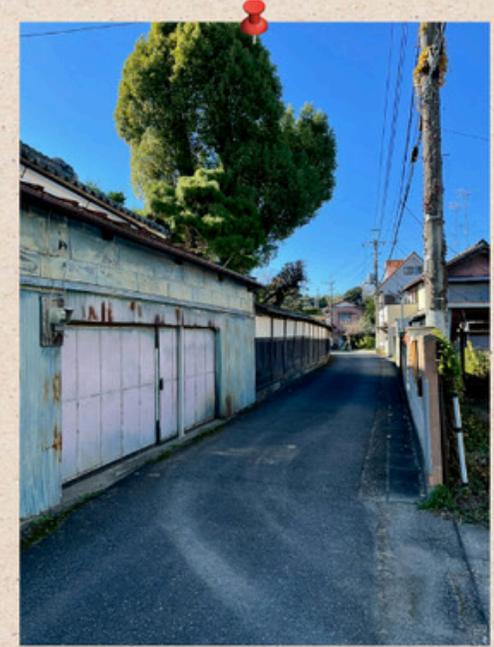
—小川町で活動しているなかで大切にしていることはありますか

木谷さん  
 「まちの居場所をつくること」これを意識して活動しています。  
 まちに暮らす色々な人にとって、家や仕事場、学校以外にも、まちの中に自分の居場所と思えたり、人と出会える環境があればいいなと。自分は空き家利活用というよりも、まちの居場所をつくりたいという思いの方が強いかもしれないです。

—今後の活動の展望を教えてください

木谷さん  
 比企銀行のプロジェクトをきっかけに、小川町でたくさんの人と繋がることができました。これからは、まちの中の数か所で居場所として活用できる場所をつくっていきたい。  
 北裏St.フェスティバルのようなイベントや、人が自然と集まれる場を増やしていけたら嬉しいですね。  
 あと、誰かと一緒に設計する仕事もできたら楽しそうだなと思っています。

改修したガレージから  
 様々な音色が♪





## 小川町で活躍する、スター人をご紹介します！

### 【小川町で、人と場をつなぐ“仕掛け人”】

YOU INC.代表 / 「PEOPLE」店主  
柳瀬武彦さん



山に囲まれた静かな小川町。その中心に佇む大谷石の蔵で、複合的喫茶「PEOPLE」を営む柳瀬さん。東京・練馬区で生まれ育ち、広告会社でイベントプロデューサーやコピーライターとして働いたのち、小川町と出会う。週末だけ通う二拠点生活を経て、2022年に家族で移住した。現在は、町の人と外から訪れる人をつなぐ存在となっている。

—小川町について  
大きな大学のキャンパスのような感じです。

#### —喫茶「PEOPLE」—

PEOPLEは、小川町に残る大谷石の蔵を改装して生まれた複合的喫茶。昼は地元野菜を使った食事やコーヒー、夜はお酒も楽しめる。2階には本屋「BOTABOOKS」を併設し、食と本、人が自然に交わる場として町の日常に寄り添っている。



#### 【DATA】

住所 : 小川町小川197 玉成舎の石蔵  
定休日 : 月火水木日  
営業時間 : 金 : 11:00-15:00・18:00-22:00  
土 : 11:00-16:00



## 「町の声を、音で残す。」

— まず、小川町に関わるようになったきっかけを教えてください。

柳瀬さん

東京で働きながら、家から通える田舎で暮らすことを考えるようになったことがきっかけです。

— 数ある場所の中で、小川町を選んだ理由は？

柳瀬さん

東京から1時間ほどで来られる距離にあって、自然に囲まれた環境があることです。

週末に通う二拠点生活ができる場所として、ちょうどよかった。その後、2022年に家族とともに完全に引っ越しました。

— PEOPLEのある石蔵との出会いについて教えてください。

柳瀬さん

小川町創り文化プロジェクトのメンバーの平山さんにご紹介いただいて、この石蔵と出会いました。

最初から、ここで何をやろうと決めていたわけではありません。

— 場所が決まってから、何をやろうと考えたのですか？

柳瀬さん

古い物件が好きで、歴史や文化、情報がしみ込んだ建物に惹かれました。この石蔵を見て、ここで何ができるだろうと考え、コーヒーや軽食を提供する場所にしようと思いました。

そうして「PEOPLE」という形になっていきました。

— ラジオ番組「おがわのね」についても教えてください。

柳瀬さん

小川町に関わる人たちの話を聞く、インターネットラジオです。

ポッドキャスト（Podcast）で聴ける、地元のラジオとして始めました。これまで64人の話を聞いてきました。

— 「ね」という名前には、どんな意味があるのでしょうか。

柳瀬さん

「ね」には、音と根の意味があります。

人の暮らしの中には、地域に張り巡らされた根がある。

それを音として残したいと考えています。

— 最後に、今後の活動の展望を教えてください。

柳瀬さん

小川町のブランドづくりをしていきたいです。

町のポテンシャルを活かし、小川の輪を広げていく。

町の人より町を知り、「何かやろう」と思えるような意志が生まれること。それが最終的に「東京ゆるませ計画」につながればと思っています。



【取材場所】

クリエイティブスタジオ  
「UNE STUDIO」

住所：小川町大塚74-1 GMビル2F





# 放課後スポット紹介

地元高校生が放課後に  
ぐらっと寄るようなスポットの  
スナップショットを  
一言添えながら紹介します



「いつもの  
帰り道」

学校からの帰り道、  
今日は駅には行かず...



「気まぐれの裏路地」

いつもと違う道の先  
何が待っているのか、...



# 「踏切発見」

榎川踏切



# 「学校帰りに山も登れる」

仙元山見晴らしの丘公園



ねこ



相生橋

「夕日が映える  
橋上風景」



人



猫



ねこ





「勉強していたら  
こんな時間に」  
小川町立図書館



「暗い道を温かく  
照らしている」  
南裏通り



大塚八幡神社

「小高い丘の  
非日常」

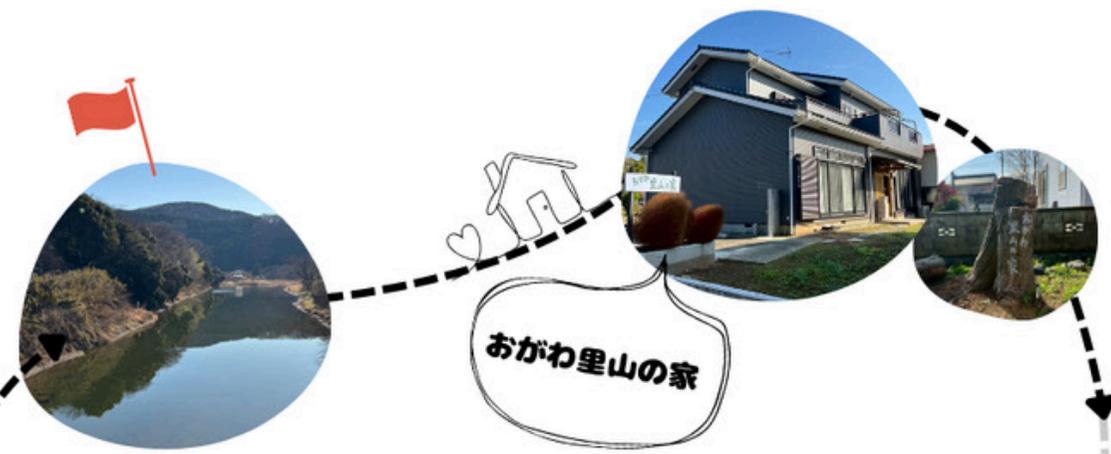
いつもと違う道の先には  
日々の疲れを癒せる  
"ランドマーク"



「川沿いの景色で  
リラックス」

栃本親水公園





ページをめくるたび、小川町の風や光、そしてそこで暮らす人々の息遣いを感じていただけたでしょうか。

私たちが今回ご案内したのは、有名な観光名所ではないかもしれませんが、しかしここには、スターたちの熱量、放課後の何気ない帰り道、路地裏に差し込む夕陽といった、「日常」が流れています。

観光地を巡る旅も楽しいけれど、誰かの日常にお邪魔するような、こんな「ローカル旅」も悪くない。そう思っていたら、私たちにとってこれ以上嬉しいことはありません。

この冊子を閉じたあと、次はあなたの足で小川町の新しい魅力を探しに来てください。

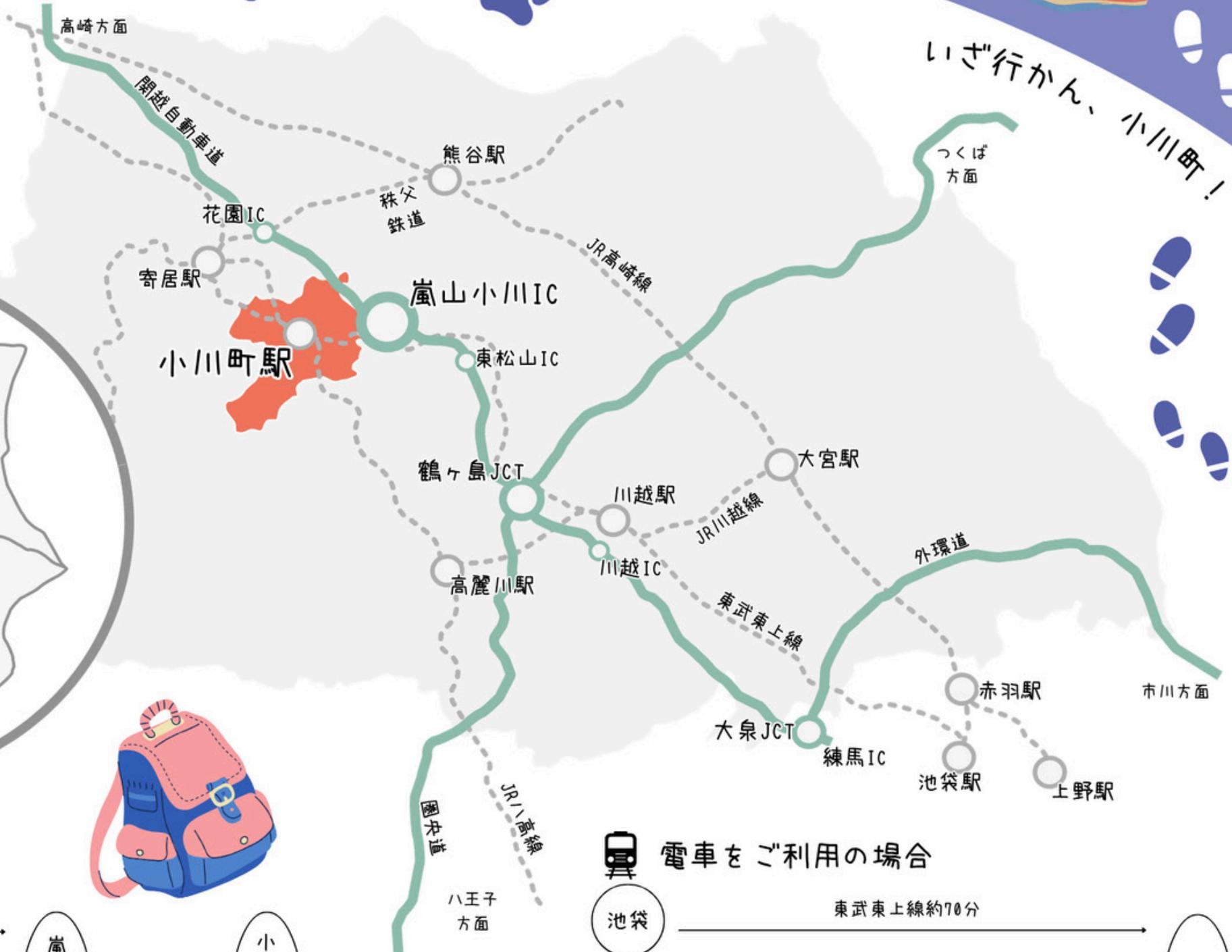
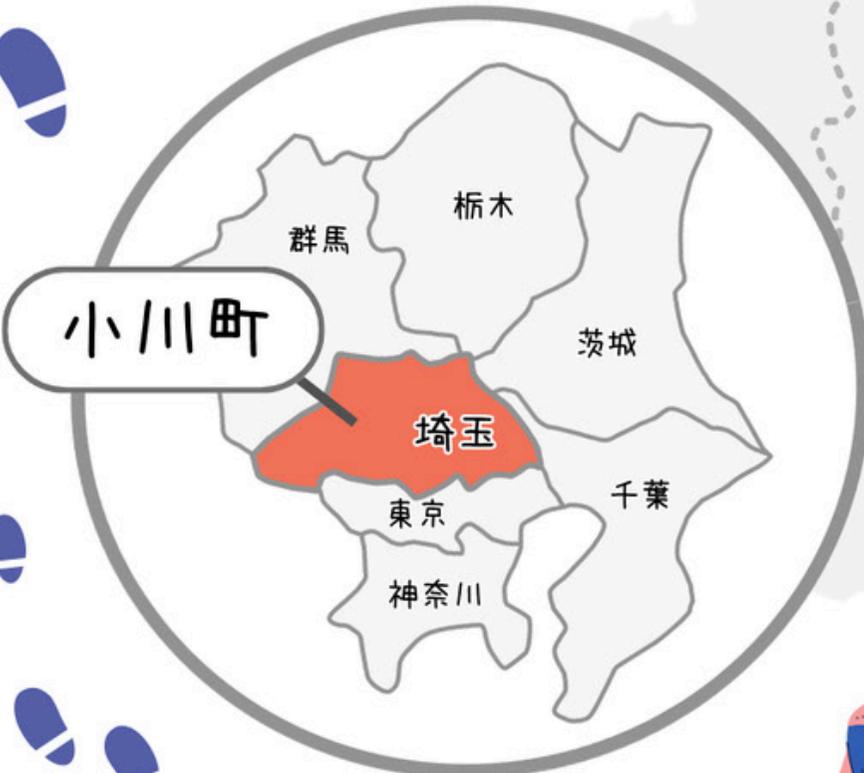
誌面の中だけでなく、実際の小川町の空気を吸いに来てくれることを楽しみにしています。



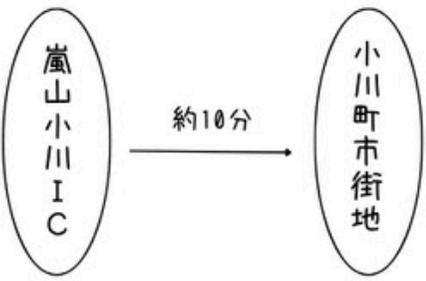
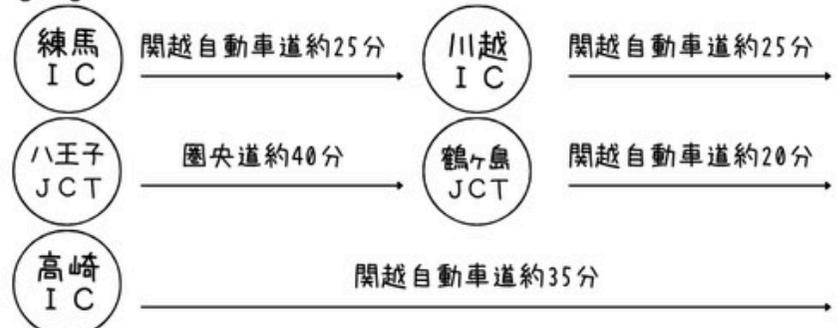
# 小川町へのアクセス



いざ行かん、小川町!



## お車をご利用の場合



## 電車をご利用の場合

